

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

ひまわり



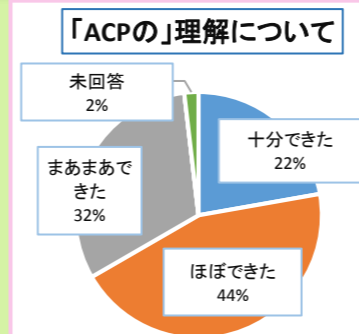
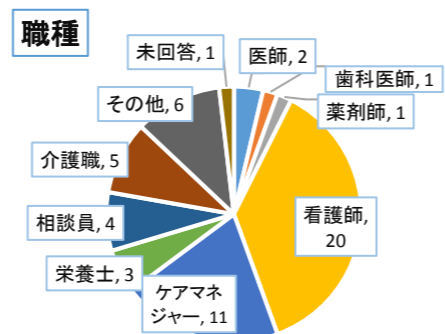
第25号 令和2年3月
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

令和元年度第5回さつまるネット研修会(1/30) 「歯周病ってどんな病気？」 ～歯周病が全身に及ぼす影響について～



薩摩郡医師会病院新館会議室に於いて、薩摩郡歯科医師会のご協力により、日本歯周病学会認定医の竹内尚士先生にご講演頂きました。歯周病専門の歯科医は、日本国内で3%と非常に少なくとても貴重な研修会になりました。歯周病の基本的な知識から糖尿病との関連性、早産との関連性やアルツハイマー病との関連性等について詳しく学ぶことができました。参加された方からは、「分かりやすかった。歯周病は大変な病気だと実感しました」「とにかく検診と予防が大切と思いました」など多くの皆様からご感想を頂きました。

令和元年度第4回さつまるネット研修会(12/5) 人生の最終段階における医療・決定プロセスガイドライン ～アドバンス・ケア・プランニングの基本的な知識～



宮之城ひまわり館に於いて、第5回さつまるネット研修会を開催致しました。今回は、2019年度鹿児島県委託事業「医療・ケア意思決定支援プロセス事業」を受託されている、社会医療法人博愛会相良病院の緩和ケア支援センター長江口恵子先生に「アドバンス・ケア・プランニングの基本的な知識」についてご講演頂きました。参加された方からは、今後進めて行く為の取組として「医療・介護従事者の合同の研修会」や「市民・医療・介護従事者合同の研修会」などが必要という意見が多く聞かれました。また、「自分のこととして、医療と話し合い介護とも話し合うチームとして関わりたいと思います」とのご意見も頂きました。65名の方にご参加頂きました。

重複服薬患者等に対する薬局での取り組みについて

近年、薬剤師・薬局は、対物(薬)業務から対人業務への構造的な転換を求められており、医薬品医療機器等法・薬剤師法等の改正、令和2年度調剤報酬改定等により、いくつかの新たな取り組みが始まります。それらの多くは、医療機関等との連携が必須となっています。今回は、その一つとして、多剤・重複服薬や残薬についてご紹介します。

薬局では、これまでも重複投薬等について処方医への疑義照会や情報提供を行い、保険者事業等にも協力してきたところですが、今回の調剤報酬改定にて新たな重複投薬への取り組みが評価項目として設定されました。具体的には、**薬局にて、患者の服薬情報(他の医療機関の薬や市販薬を含む)を一元的に把握し、重複投薬等の有無の確認を行った上で、重複投薬等のおそれがある場合には、処方医に文書により情報提供(重複投薬の状況や副作用の可能性等を踏まえ、患者に処方される薬剤の種類数の減少に係る提案)を行う**というものです。

また、残薬については、**患者に残薬が一定程度認められると判断される場合には、残薬の状況及びその理由を患者のお薬手帳に簡潔に記載し、処方医に対して情報提供するよう努めること。さらに、残薬が相当程度認められると判断される場合には、処方医に対して連絡し、投与日数等の確認を行うよう努めること**とされています。

今後、薬局から医療機関へ重複服薬や残薬についての情報提供がより積極的に行われるようになると思われます。処方医の先生方には、お忙しいところお手数をお掛けしますが、薬局からの情報を参考にいただければ幸いです。

他の専門職の皆様には、居宅等において、残薬や複数医療機関の薬を服用している等の情報がありましたら、患者が利用している薬局に情報提供くださいますようお願いいたします。

(文責: 薩摩郡薬剤師会 岩元 暢秀)



令和元年度第2回川薩地区在宅医療推進リーダー会議(2/19)



川内看護専門学校に於いて令和元年度川薩地区リーダー会議が開催されました。報告事項では、「川薩地域入退院調整ルール」運用後アンケート調査結果について川薩保健所より説明がありました。協議事項では、薩摩川内市歯科医師会より、『長期的に治療が必要な患者さんが入院された後、急性期から回復期、または転院等により患者さんがどこに行ったか分からない事が多々ある。何処に入院してもケアや治療が受けられる体制づくりが必要ではないか』との発言があり、意見交換がなされた。各協議会で患者さんロスをなくするにはどうするか議題として検討していくこととなりました。

	R2年: 3月25日現在							
	H28.7	H29.1	H29.8	H30.11	H31.4	R1.9	R2.2	R2.3
A 病院	13	15	22	31	42	47	58(2)	69(4)
B クリニック	23	25	34	55	58	68	74(2)	75(3)
C クリニック	21	21	28	42	44	53	59(2)	59(2)
D クリニック	1	1	1	1	1	1	1	1
E 病院	5	5	6	6	6	6	6	6
F クリニック	4	4	4	4	4	4	4	4
G 病院	2	2	2	2	2	2	2	2
H 病院	1	6	9	19	20	22	34(5)	37(7)
I 病院		1	5	5	5	5	5	5
J 病院		1	3	5	5	5	5	5
K クリニック		5	5	5	15	15	15	57(44)
Lクリニック					1	1	1	1
N病院					1	1	1	1
O病院							2(2)	2(2)
M診療所				11	11	13	13	13
T診療所						2	2	2
延べ記載総数	70	86	119	186	215	245	282(13)	339(62)
現在の稼働枚数					97	112	117	162

()内は新規あんしん医療連携シート記載者数

あんしんカプセル・あんしん医療連携シート活用状況

あんしん医療連携シート(旧在宅医療連携シートを含む)記載者数は、会員の先生方のご協力のもと、令和2年3月25日現在延べ339名となりました。また、2月から3月までの1か月間で、新たに57名の方にあんしん医療連携シートを記載して頂きました。ご協力まことに有難うございました。またさつまる町で取り組んでいるあんしんカプセルは、令和2年3月26日現在、58公民会、914個配布、緊急連絡票は1482名の方が作成されています。

《センターより》

今回から専門職の皆様からの情報を掲載させて頂く事と致しました。第1回目は、薩摩郡薬剤師会の岩元先生にお願い致しました。皆様からの情報提供よろしくお願い致します。新型コロナウイルスの影響で、会議・研修会の中止を余儀なくされています。その為、4月以降の活動につきましても全く目途が立たない状況です。皆様方にはご迷惑をお掛け致しますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

